

## トルコギキョウの枝折れ症発生の品種間差

農業研究センター 農産園芸研究所 花き部

### 研究のねらい

トルコギキョウは切り花の日持ちが良く、生活の洋風化によく調和するため、近年需要が増加し、本県でも菊池地方を中心に約12haが栽培され、年々生産が拡大している。

しかし、生育期後半から、枝に亀裂や俺が発生する「枝折れ症」が見られ、品質を低下させ問題になっている。

そこで、枝折れ症の発生率を品種別に調査し、枝折れ症対策の資料とする。

### 研究の成果

「若鷲」ほか39品種を供試し、平成元年9月18日播種、11月17日定植し、定植日より4月中旬まで15℃加温で栽培した。

10aあたりの施肥量は、N:PO<sub>4</sub>:K<sub>2</sub>O = 15:15:15とした。

1. 枝折れ症は、極早生～中生の花色が白、紫の品種で多く発生した。
2. 枝折れ症の発生が多い品種は、草丈が長く、生育の旺盛な傾向にある。
3. 枝折れ症の発生が1割以上の品種は、「源氏の雪」「都白」「グローリーホワイト」「紫紺源氏」「都紫」で、1株で2ヶ所以上折れる株もある。

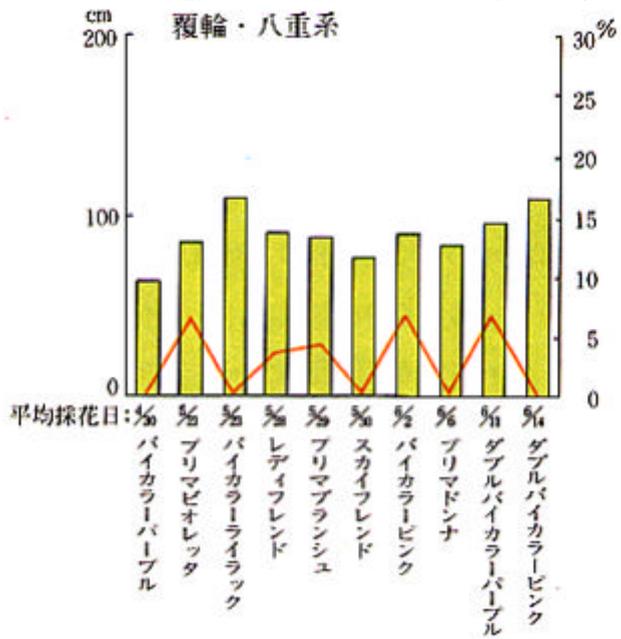
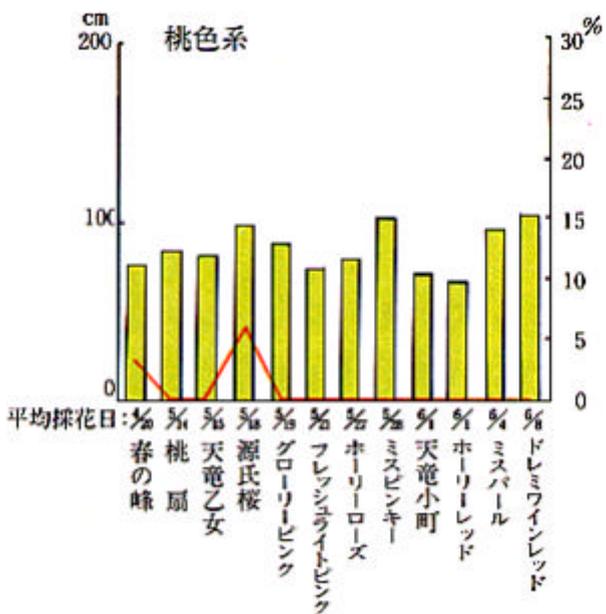
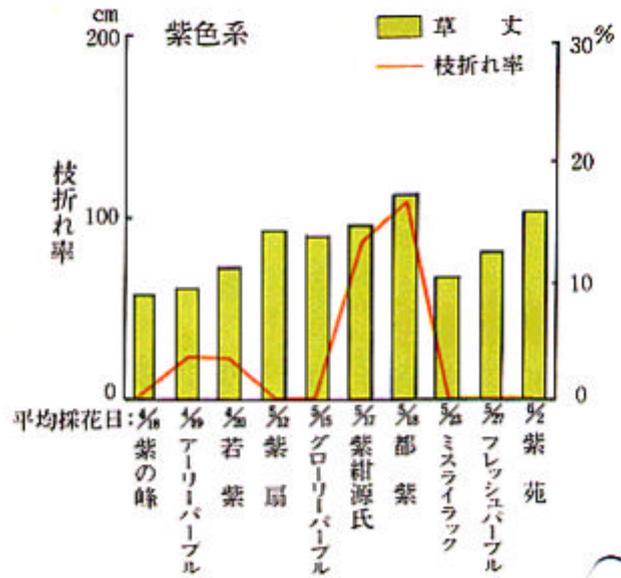
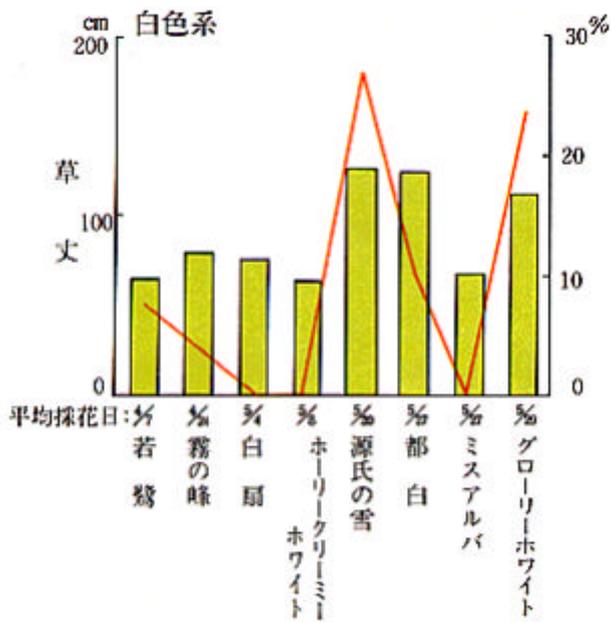


図1～4 各系統毎の枝折れ症発生率と草丈



写真 枝折れ症